

北海道北部の群発地震活動と稠密 GNSS 観測から推定された浅部ゆっくりすべり

大園 真子 (北海道大学)

ポイント

- 道北地域の内陸で群発地震の発生時期に非定常な地殻変動を検出した
- ゆっくりすべり(SSE)を仮定すると、観測値を概ね説明する
- 推定される震源断層はほぼ水平で、水平な地質構造境界がすべったと考えられる
- 沈み込み帯で多く発生する SSE とは地下の温度や圧力の状態が違うことから、SSE が発生する条件も異なると考えられる
- 2022 年にも近くで群発地震が発生したため、GNSS データを解析したが、顕著な非定常変動は見られなかった  
→ 地震活動の場所は近くでも発生している現象は異なる？

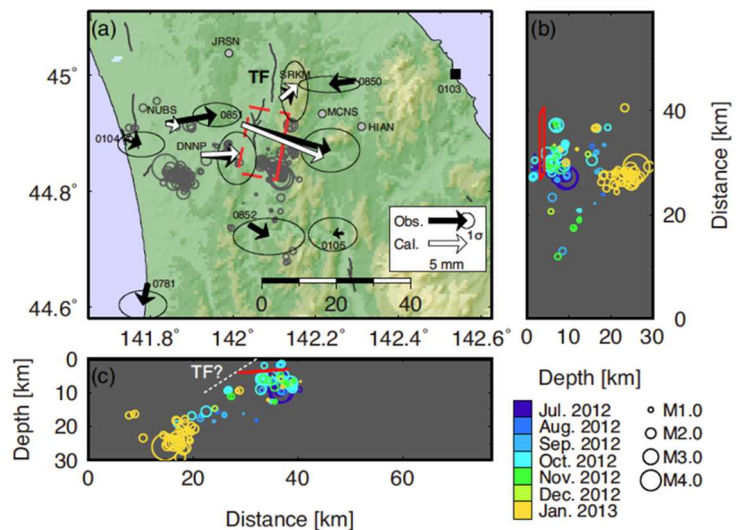
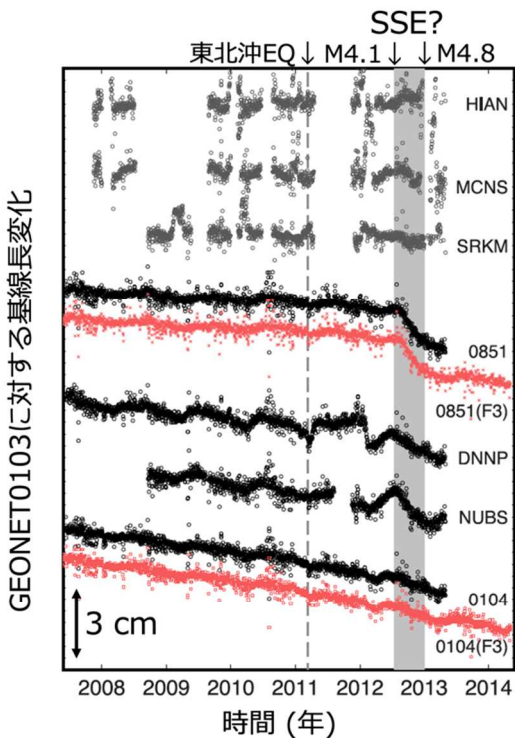


図1(左) GNSS 観測から検出された非定常地殻変動の時系列. (右) 推定された断層の位置と震源分布の関係

図 2 通常の地震、プレート境界で発生する SSE の規模と継続時間の関係に、今回の SSE のケースをプロットしたもの

